

池袋・駒込エリア

サンシャイン60を眺めながら歩く住宅街の道

11 目白駅 から 鬼子母神・護国寺



おすすめ
3時間散歩

モデルコース

目白駅	20分
鬼子母神	15分
本納寺	2分
本納寺	5分
大鳥神社	1分
大鳥神社	5分
護国寺	7分
護国寺	20分
護国寺	5分
護国寺	15分
護国寺	10分
護国寺	5分
護国寺	11分
護国寺	30分
護国寺	1分
護国寺	14分
護国寺	30分
護国寺	8分
護国寺	20分
護国寺	1分
護国寺	1分

地図79頁

目白駅から子育ての神として知られる鬼子母神、著名人が多く眠る護国寺、麻園美の梅山荘、江戸屈指の大寺の面影を残す護国寺などを訪ねるのがこのコース。コースの半分は住宅街の中の道で、賢察にサンシャイン60を眺めながら歩く場所が多い。途中には、道が細くわ

かりにくいところ——特に鬼子母神から梅山荘にかけて——もある。このコースをよく見て迷わないようにしてほしい。また、このコースは全部で約3時間半の所要となるので、時間がない時は梅山荘を降りて護国寺へ向かうなど、うまくアレンジするといい。

電の姿も見える。

鬼子母神▼



目白通り

築工事中の目白駅から、目白通りを東へ。すぐに美しいイチョウ並木が迎えてくれる。通りの右手には学習院、左手に川村学園、しばらく歩いた先には日本女子大があるので、学生の姿も多いが、学習院の赤茶色の壁からは歴史を感じさせる雰囲気がある。学習院正門前で通りを渡り、目白警察の前を過ぎると、千登世橋の石造のしゃれた横欄灯が見えてきた。千登世橋は昭和7年に架けられた。明治通りと目白通りの立体橋、二つの道路にかなりの高低差があるので、当時としては土木技術を駆使した最新のスタイルだったようだ。橋は都電の荒川線とも立体的に差して、ゆるやかなカーブを走る都

その先の高田一丁目交差点で左に曲がると、人の声や自転車のベルの音などが響く、商店街になった。鬼子母神前駅のところ、都電の踏切を渡ると、その先には樹齢400年を誇るケヤキの大木があり、そこが鬼子母神への表参道。空をも覆い隠すようなケヤキ並木の下は、空気もひんやりとしてとても爽やか。参道が突き当たったところを左に曲がると鬼子母神の境内で、境内もこもりと木に覆われている。ここには樹齢600年近くにもなるイチョウの大木や麻葉子の川口屋があり、子供に買って遊ばせるような境内だ。

鬼子母神(拝観無料、6時半~17時約15分)は、近くの清土(目白台)の墓の井から出土した鬼子母神像を本尊として、天正6年(1578)に建立。安産・子育ての神として信仰

されている。人の子を喰う鬼女だった鬼子母神は、仏に自分の最愛の子を隠されたことをきっかけに自らの運命に気づき、仏に帰依して安産と育児の神となったと伝えられている。そして、その像が鬼の姿でなく、子供を抱いた菩薩の姿をしていることから、鬼の角を取った「鬼」の字を使うのが正式、本堂に上がると、賽銭箱の奥に金網の衝立があり、ごくの絵が描かれた絵馬がたかきん掛けられていた。どれにも「元氣な赤ちゃんが生まれますように」といった願い事が書かれ、傍らでは若い夫婦がお参りしている。室内には、江戸・明治期の絵馬50数点も奉納されていて、ゆつ

都電とサンシャイン60

いちよう通りと呼ばれる霊園



オルゴールの小さな博物館

地図79頁C3

護国寺近くにあるツタのからまる建物がある。18世紀末から20世紀初頭にかけてのアンティーク・オルゴールの演奏を、スタッフの解説付きで楽しむことができる。ディスク・オルゴールやストリート・オルガン、自動ピアノなど、どれもやわらかく遊んだ音色で包み込んでくれる。ちなみに114頁で紹介しているオルゴールの小さな博物館 台座は、このお姉様施設で、台座には初心者に親しみやすいものが並び、ここにはマニアが喜ぶような貴重品がある。入館は完全予約制で、土・日曜・祝日を除く13時半から15時から。入館料1000円で、1回45分の所要・15人定員。問い合わせ・申し込みは☎03-3941-0008へ。

くりと鑑賞することができた。そして川口屋へ。1個1円の糸引きアメを思わず買ってしまいい、なめながら鬼子母神を後にした。

秋田雨雀の墓と蜀山人の狂歌が2首刻まれた月花塚がある本納寺(境内自由、約5分)と、抱燈の神として知られる大鳥神社(境内自由、約5分)に寄り、都電の踏切を渡り返す。かつては路線を張りめぐらせていた都電も、今走っているのはこの荒川線だけ。その線路沿いに歩くと、サンシャイン60が見えてきた。都電と超高層ビル——ちよっとアンパランスだと思いつつも、これも東京の風景。と納骨。その風景と別れて、住宅街の中へ進むと、静かな中にカンカンという踏切警報音と、ゴトゴトと走る都電の音が聞こえた。

宝蔵寺の角を曲がり、ゆるやかな坂を上っていくと、護国寺(入館自由、約20分)。明治7年(1874)に開設された都立霊園で、面積約11万平方メートル。園内には泉鏡花・永井荷風・小泉八雲・夏目漱石・竹久夢二……らの墓もある。その場所を知るには管理事務所の案内図が便利。都市緑化基金に募金(1000円程度)する形で手に入れることができるので、僕もそれを持っていくつかの墓参りをした。途中木々の間からまたサンシャイン60が眺められた。先ほどより少し近付いただけなのに、建物

が急に大きくなったかのよう。お墓では堂々とした墓石の、夏目漱石の墓が印象的だった。

内道の道を南へ。その先は車1台が通れるぐらいの道を歩く。途中でレンガ風のスタイルが敷かれた道に入ると、住宅街の一角に護国寺(入館無料、月曜・第3日曜と祝日の翌日休館、約15分)の白い建物が姿を現した。明治40年(1907)に、アメリカ人宣教師ジョン・ムーア・マッケンリーが自分の住まいとして建てたもの。豊島区内に現存する中で一番古い近代木造洋風建築で、都内でも数少ない明治期の宣教師館。館内には日本

の展示があった。僕にはびかびかに磨かれた建物も魅力的。特に床から天井までほとんどが窓の南側の部屋や、2階の天井に使われている竹が美しい。竹は建築から1世紀近く経ち、淡いこげ茶色になっていた。

夏目漱石の墓

